

複合領域

社会・安全システム科学

技術分野

・ 2201 社会システム工学・安全システム

産業分類

・ D 06 総合工事業
・ R 95 その他のサービス業

技術キーワード

・ 減災
・ 防災
・ 復旧
・ 復興
・ まちづくり

災害後の空間を考える

北川啓介 (創成シミュレーション工学専攻)

被災地の復興は、地域の声を形にすること

技術概要

「被災後に人が人らしく生活するうえで大切なこと」を汲み取るため、被災地に向かい、被災者の状況を調査しつつ、現場の声を聞かせていただき、それをカタチにすべく動いています。東と西にある見えない境界線をなくして、日本という1つのより良い環境を創造することを目指しています。

背景・従来技術

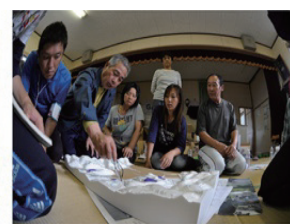
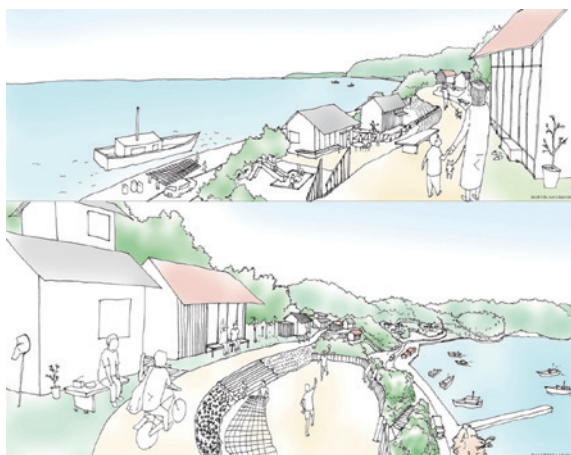
震災の影響は残っており、被災地の復興はまだ道なかばです。しかし、震災の風化も懸念されています。

特徴

支援においては、地域の人とひざをつき合わせて話し合い、本心をカタチにすることです。「連携」も重要なキーワードです。当大学だけでなく、国内・海外における他大学、企業や行政と共にすすめています。

実用化イメージ

具体例をあげますと、宮崎県石巻市の漁業町である牡鹿半島を対象とした「ワイヤレスハウス」です。例えば、熱のこもる台所に冷蔵庫を置くとエネルギー面で非常にロスが大きいと考えられます。家の中に取り込んだ熱や湿気を効果的な部分に回す仕組みを作り、部屋や家電の配置を工夫することで、使用エネルギーの総量を大幅に減らすことができます。



企業への提案

研究者から企業へのメッセージ

北川啓介研究室では、建築意匠、建築設計、都市計画、現代建築論、情報空間論、ナゴヤ論などを、現代の社会事象とも絡めながら、研究と設計を進めています。

文献・特許

- ・ 浜からはじめる復興計画—牡鹿・雄勝・長清水での試み、アーキエイド、彰国社
- ・ 北川啓介、東日本大震災の被災地を訪ねて、建築と社会 92 巻 1070 号, pp.28-29, 2011 年 05 月
- ・ 備える！ 3・11 から, 中日新聞社会部
- ・ 北川啓介, 建材の可能性, 日本建築家協会東海支部機関紙 ARCHITECT, pp.4-5, 2011 年 02 月

共同研究を希望するテーマ

- ・ 減災に向けた施策立案
- ・ 防災に向けた施策立案

試作品状況

無

提示
可

提供
可